北多摩北部高次脳機能障害者支援ネットワーク　市民交流事業

高次脳機能障害と共に成長する

若年当事者と家族の歩み

本日の登壇者

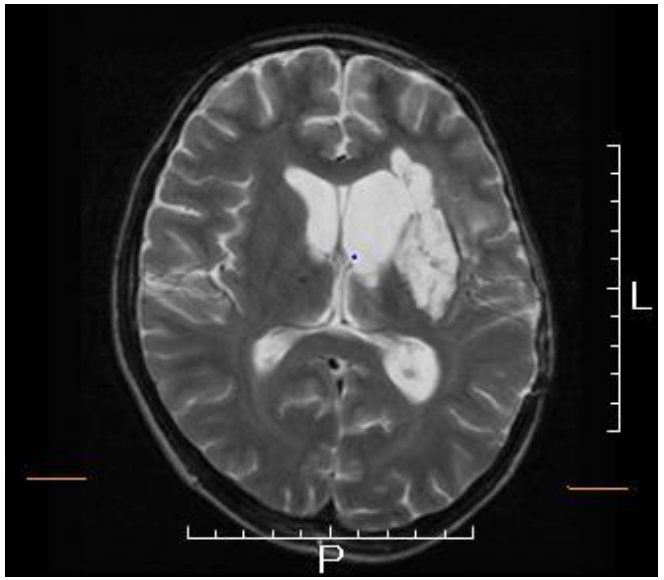
- 当事者　　ご家族（母）

- 外来担当作業療法士
- 高校担任教諭
- パラスポーツ指導者
- パラ水泳友人
- 就労支援機関担当者

司会　外来リハビリ担当医

Rさん　20代　男性

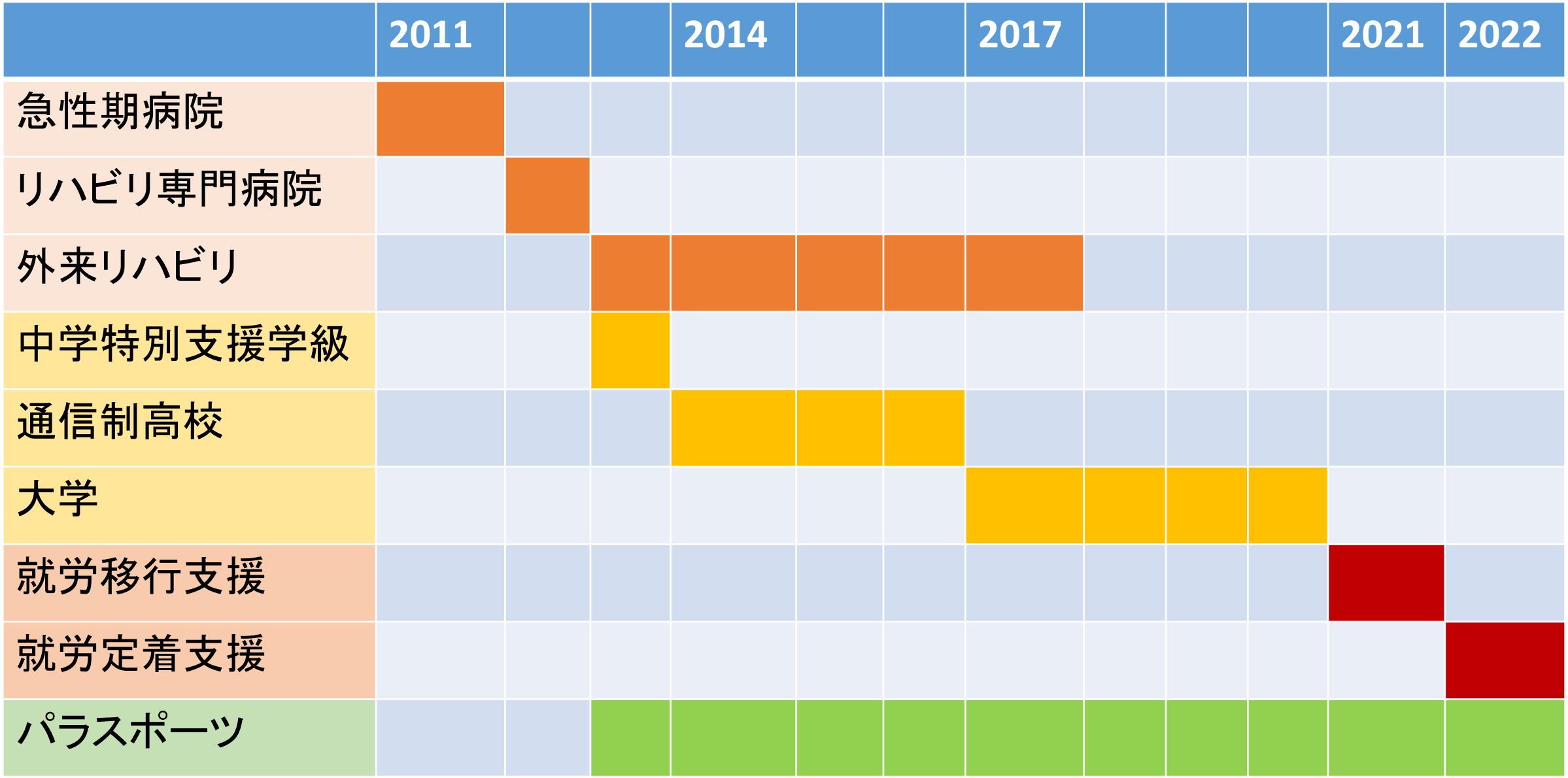
2011年秋　交通事故にて頭部外傷　救急病院入院
左被殻出血（開頭血腫除去術）



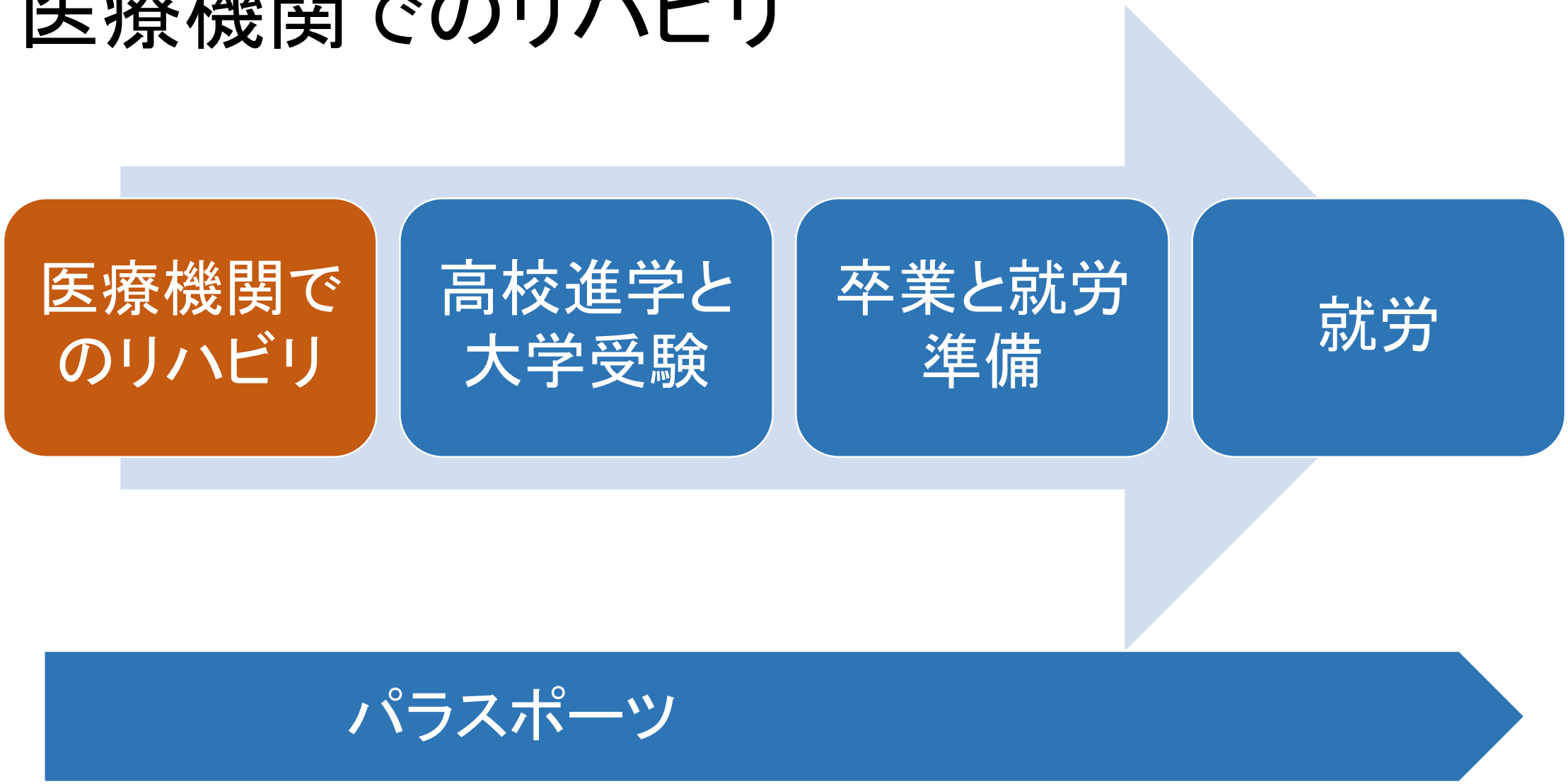
右片麻痺
失語症含む高次脳機能障害

（当院外来受診時のMRI画像）

受傷後の経過　復学～就労と支援機関



医療機関でのリハビリ



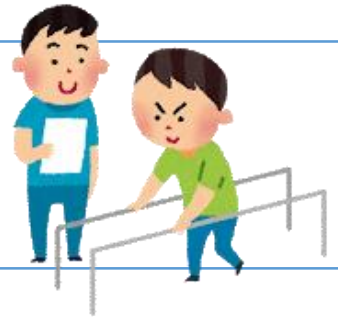
医療機関でのリハビリ

救急病院

- 救命
- 廃用防止

リハビリ専門病院

- 右片麻痺・失語症のリハビリ
- 歩行セルフケア自立　自宅退院



外来リハビリ

- 右片麻痺　失語症含む高次脳機能障害のリハビリ
- 屋外歩行　日常コミュニケーション含むADL自立
- 復学　スポーツ

外来リハビリの目標と訓練内容

【目標】

屋外応用歩行　学校生活自立　日常会話レベルの疎通自立

【リハビリ内容】 2012.6～

- PT　右上下肢機能訓練　廃用防止　麻痺肢の自己管理
  通学やスポーツに耐えられる体力・歩容の向上
- OT　高次脳機能評価指導　集中と訓練意欲向上の工夫
- ST　失語症、発語失行の評価訓練　コミュニケーション能力の向上

PT/OTは2014.3で終了　STのみ複数の医療機関で2018まで継続

当事者

- 一人で休まず通院
- 集中できず、ふざけてしまうこともあったが徐々に改善
- 学校や部活で応援してもらい嬉しかった

  でも本当は前のように野球がしたかった
- 多摩スポーツセンターでパラ水泳と出会う

  24hTVに出演

家族

- 麻痺や失語が残っても、できる限りの改善を目指してリハビリを継続
- 支援学級に復学することで、本人の気持ちに影響しないか心配
- 元気になった喜びの反面

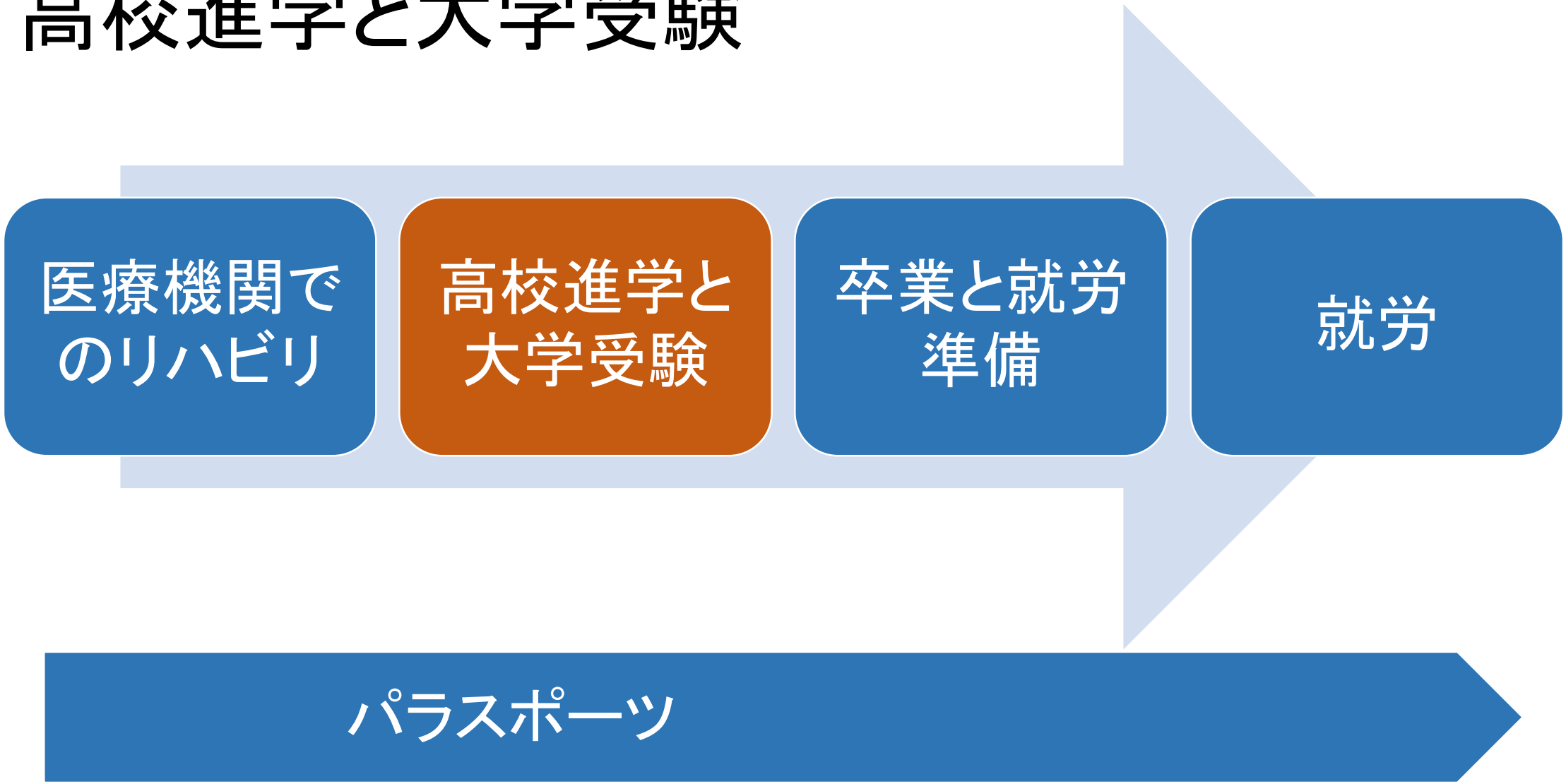
  親としても以前との落差に苦しむ
- 明るくスポーツ好きな長所を活かし頑張れるよう支援

意欲の保持や注意集中ができるよう工夫

最後に本人の好きなスポーツ課題

家族の協力得て宿題も

高校進学と大学受験



中学特別支援学級卒業後の進路選択

	特別支援学校 高等部	通信制高校 （個人）	サポート校 （通信制高校）	技能連携校 （通信制高校）	全日制高校
教育委員会 指定		あり		あり	あり
他会場への スクーリング		必要	必要		
登校	週5日	個人選択	個人選択	週5日	週5日
授業形態	少人数	様々	様々	少人数	集団
資格	大学受験資格	高卒	高卒	高卒	高卒

高校での支援

- 教育委員会が指定する通信制高等学校の技能連携校
- 少人数、個別授業
- きめ細やかな指導が可能
- 週5日登校　年間行事・部活動
- 授業への出席　レポート提出　定期試験
- 卒業すれば高卒資格を得られる
- 社会へ飛び出す自信をつける
- 保護者の協力が必須　1/月保護者会　行事への参加

当事者

- 多様な生徒の中で、多少のストレスはあるも嫌がることなく通学
- 授業やテスト問題をその場で理解し解答するのは困難

  過去問を徹底的に学習
- 富士登山にも挑戦
- パラ水泳の公欠以外は無遅刻無欠席で卒業

笑って許してはいけない時は態度で示す
苦手なことは何回でも挑戦する
本人を通して他の生徒も成長した

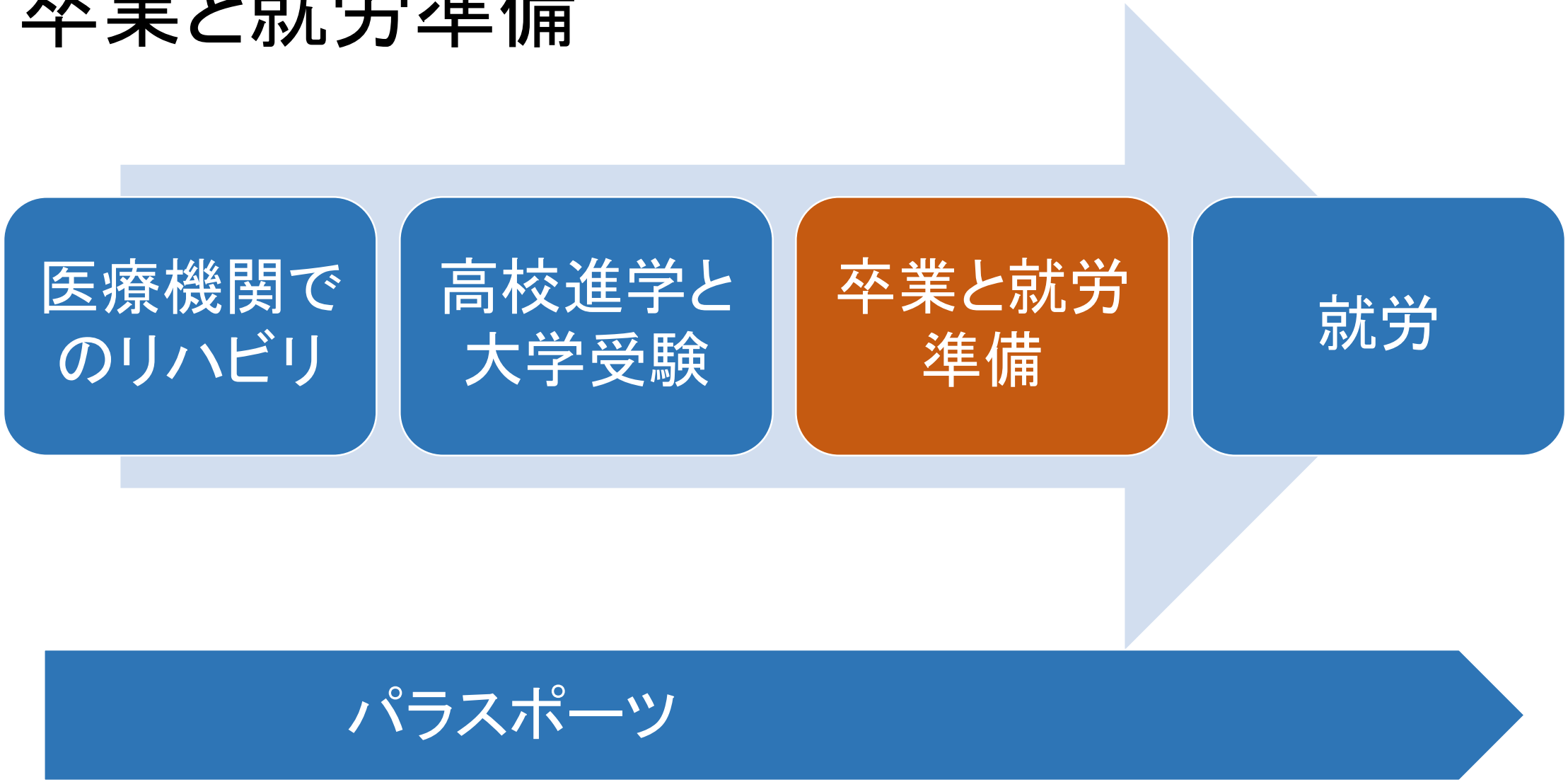
家族

- 本人の性格や能力を考えて、特別支援学校高等部ではなく通信/技能連携校を選択
- 親としては、一般社会に近い環境で成長させたかった
- 親の苦労も、自分達だけではないことを知る
- 本人と大学受験挑戦を決め、高校在学中から準備開始

大学受験に挑戦

- パラ水泳の先輩が進学　　校風・偏差値なども検討
- 高いハードルだが挑戦してみたい
- 高2からオープンキャンパスに参加し、入学希望をアピール
- 大学の個人相談にも必ず参加
- AO入試を選択　面接＋小論文（1200字）＋個人アピール
- 小論文については、傾向と対策を3か月前から開始
- 粘り強く支援者を探し、時間をかけて準備した
- めでたく合格を勝ち取る

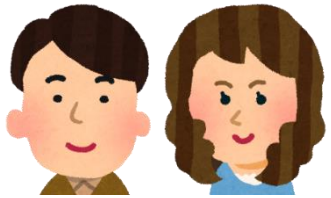
卒業と就労準備



当事者

- 毎日、最前列で授業を聴く
- 「理解や読み書きに障害があるので、ゆっくり話してください」とお願いする
- 時間内に理解できない
  検索できても、まとめられない
- 今までの中で、大学の授業とレポートが一番大変だった

家族



- 授業の理解やレポート作成には支援が必要　パソコン家庭教師
- 支援を受けていることを正直に申告した上で評価を受ける
- 学内の交渉は、全て本人にさせる
- ついて行けなければ、辞めてもよい

大学卒業まで

- 障害について特別な配慮のない環境からスタート
- 授業の理解に時間がかかることを本人から教官に伝える
- 失語症のために支援を受けたことを伝えた上で課題を提出
  ほとんどの教官が評価をつけてくれた
- パソコンについては、家庭教師の支援を受けた
- 単位を落とした科目は、異なる教官の授業を再履修して2年がかりで単位取得
- グループ単位の課題は、友人の協力を得て発表やレポート作成
- 無遅刻無欠席　4年で必要単位を取得して卒業
- 困難な状況下で理解を得るための態度・工夫・努力を学んだ

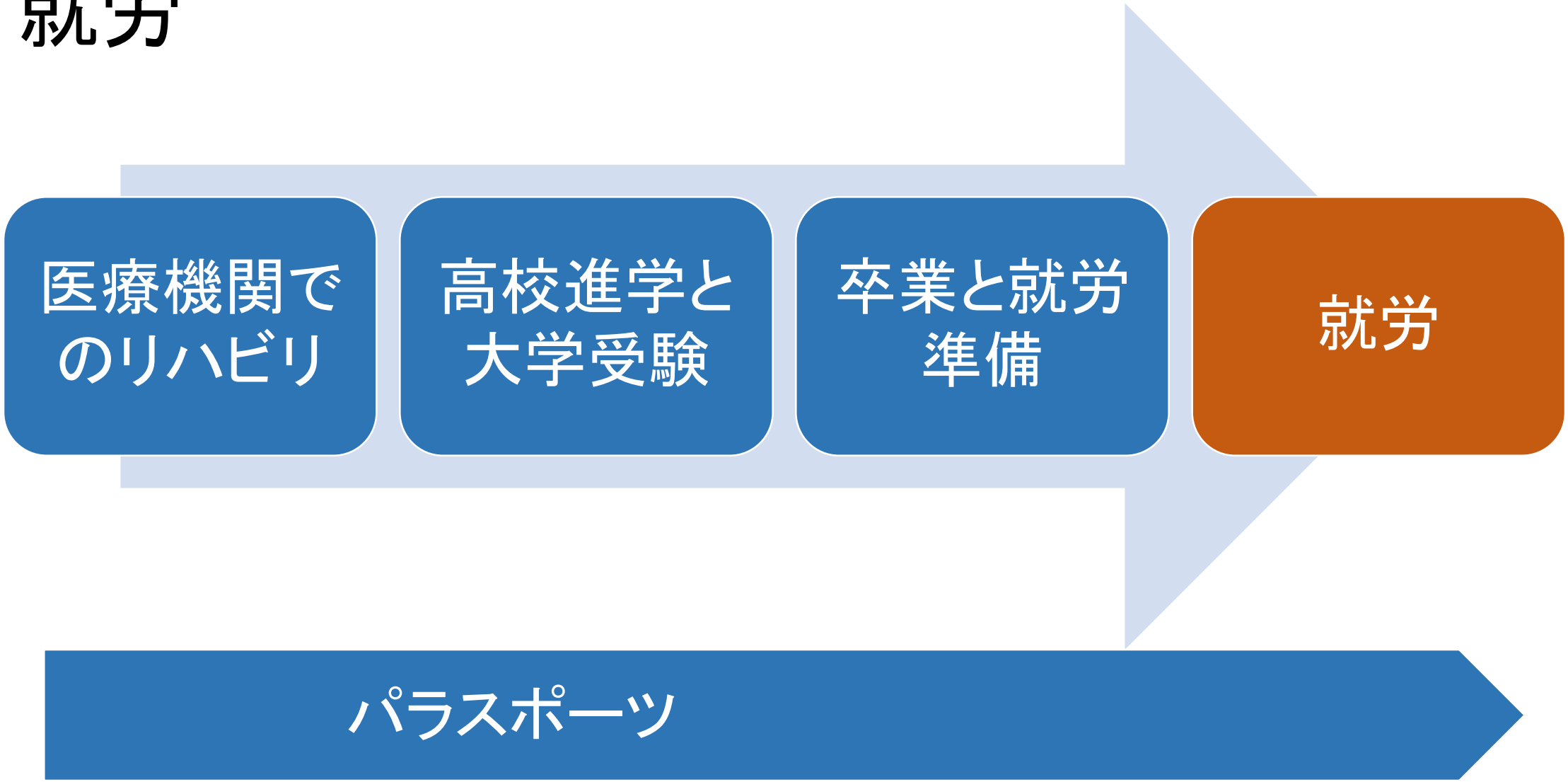
就労移行支援

- 卒業後、数ヶ所の職業訓練専門機関を受験
- 2020.4～小平市の就労移行支援事業所に通所
- 準備訓練・就労準備・実習を経て就職活動
- 複数社の面接実習

支援のポイント

本人の長所や能力を最大限生かす
「前向き」「体力」「人柄」をアピール
「失語症」「右片麻痺」が大きな支障にならない配慮

就労



就労

- 2022.5～現職場にパート採用決定
- 障害者雇用
- 週5日　10:00～17:00
- 屋内農園型障害者雇用支援サービス
- ハーブや葉物野菜の栽培、加工品の製作
- 週1回職場管理者との面接
- 月1回小平市就労定着支援担当者の訪問

就労定着支援

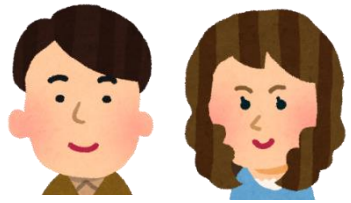
- 職場の就労支援管理者
  現場に常駐
  作業内容の調整　チームワーク　休憩の管理
  1/週面談

- 就労支援機関担当者
  定期的に職場訪問
  就労状況の確認　当事者との面談
  現場管理者と情報共有

当事者

- 遅刻欠席なく、毎日通勤
  体力的には余裕がある
- 決まった作業の他にも
  できることを工夫している
- 現場の意思疎通には
  大きな支障なく
  チームワークで作業
- 将来別の仕事もしてみたい

家族

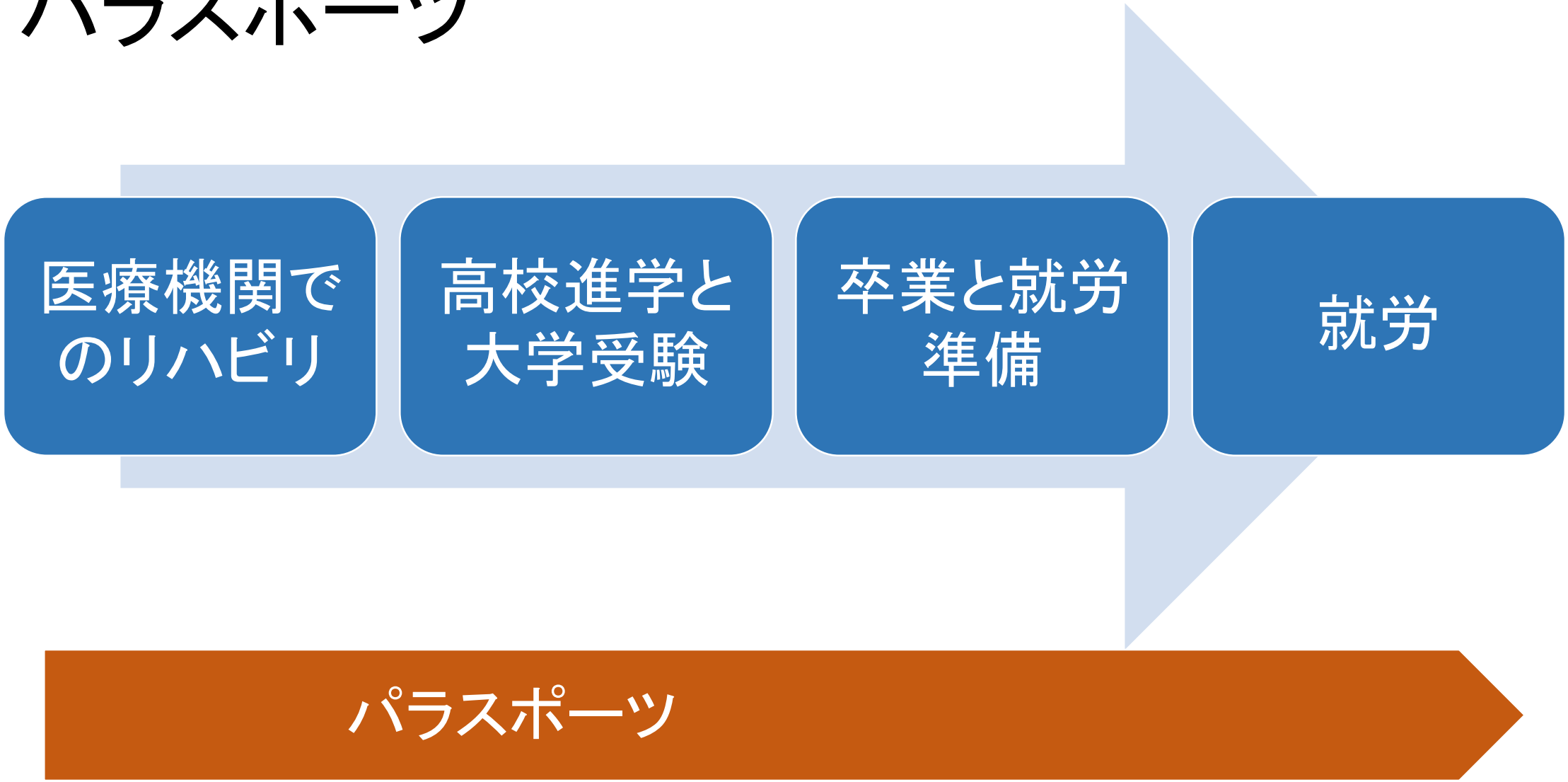


- 市の就労移行支援を利用
- 職場でのことは本人に任せ、
  手伝っていない
- まずは今の職場で実績を
  積んでほしい
- 本人が自立し、明るく前向き
  であることで、家族も笑顔で
  過ごせている

意思疎通困難を補うために工夫していること

- カレンダー、ホワイトボードの活用
- メモ、写真の活用
- スマートフォン　ライン、メールの活用
- ライン　最初の数文字で単語の候補が表示され、選択しやすい
- スピーディに要点を入力　スタンプの活用
- 必要な内容をメモ代わりに入力
- 文法や漢字の間違いがあっても支障のない相手に送信し、後で確認・修正している
- 複雑な内容は、相手に文章にしてもらい写真をメールに添付

パラスポーツ

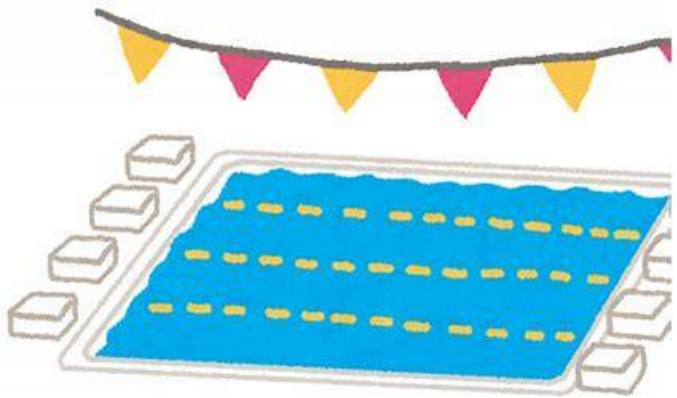


パラスポーツとの出会いと経過

- 受傷前から、スポーツが好きで得意　当時は野球クラブで活躍
- 受傷後、パラ水泳を始め育成選手として活動
- 中学時代、24hTVで高校生と男子シンクロ水泳で共演
- 理解あるコーチ、友人に恵まれ現在も交流が続いている
- 大学3年で、東京パラリンピック発掘プロジェクトに参加し、パラサイクリングと出会う
- 大学生の卒論研究に協力しながら、自転車競技部の練習に参加
- パラサイクリングの全日本選手権に参加
- 現在は個人で競技を継続

パラ水泳コーチ

- 身体障害のリハビリとして
- パラスポーツ競技として
- 障害に甘えない態度
- 高次脳機能障害への配慮
- 集団行動含む多様な体験からの学び



パラ水泳友人

- 同年代
- 共通の障害
- パラ水泳の仲間
- 遠征などで、二人で地方へ出かける
- プライベートでも、お茶やカラオケ、旅行など
- リラックスして付き合える大切な友人
- 家族同士も交流がある

当事者

- スポーツは、ストレスなく自分の能力を発揮できる
- 学校や職場での頑張りを支えている
- パラスポーツを通じた友人は楽しみや冒険を共有する仲間
- スポーツ体験をコミュニケーションツールとして交流の輪を広げている

家族

- リハビリ・進学・就労を通じて、本人の力を発揮できる場として大きな存在
- 理解あるコーチとの出会いに感謝
- 様々な人や地域との交流で世界を広げることができている
- 競技がすべてではなく、生涯スポーツとして楽しんでほしい

若年高次脳機能障害者支援の特性

- 当事者が成長過程にある
- 障害の改善と変化の予測が求められる
- 思春期　進学　就労など、人生の大きなイベントがある
- 両親の思いと関わりが強く影響するとともに、親も成熟してゆく
- 支援は、医療・教育・就労他、長期且つ多岐にわたる
- 障害特性に即した支援により、更なる改善や向上が期待できる
- 能力を発揮できる場と、共に成長する仲間の存在は大きな支えになる
- 社会的自立に向けて、継続的支援と支援者間の連携が必要である